

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 27 日現在

機関番号：34302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370607

研究課題名(和文) 日本語教員養成課程修了生の社会貢献とグローバル人材育成に関する構造化研究

研究課題名(英文) Social Contribution of Graduates of Japanese Teachers Training Course and Upbringing of Global Talented Person

研究代表者

中川 良雄 (NAKAGAWA, Yoshio)

京都外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：30261043

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：日本語教員養成課程の修了生は、課程で身に付けたコミュニケーション能力を武器として社会貢献を果たし、異文化能力や外国語能力を活かして世界観(国際感覚)に磨きをかけていく。そうした土壌の形成には、課程のカリキュラムはもちろんのこと、「好きで選んだ道」という向上心があり、課程は修了生(在學生)の期待に応えていると言える。

しかし修了生には、自身が課程でどんな資質や能力を身に付けたかについて実感がなく、修了生の能力は発掘されざる状況にある。修了生には、自身の資質や能力について、自信と誇りを持ち、グローバル人材として社会貢献を果たしていくことが期待される。

研究成果の概要(英文)：Every year many university students graduate from Japanese Teacher Training Course. However, not all the graduates become Japanese teachers. Some get a job in various occupational fields. In this study, we consider the essential qualities and abilities for global society. We also examine the possibilities of success in the global society for graduates of the Japanese Teacher Training Course. As a result, we believe that the graduates with intercultural understanding and effective communication skills have the potentials to be active participants of the global society.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語教員養成課程 社会貢献 グローバル人材 コミュニケーション 日本語教師

## 1. 研究開始当初の背景

平成 12 年 3 月に文化庁・日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議が報告した『日本語教育のための教員養成について』では、「日本語教員養成において必要とされる教育内容」として、コミュニケーションを日本語教育の中核として位置付け、コミュニケーションが「社会・文化」「教育」「言語」の 3 領域から構成され、さらにそれらを、「社会・文化・地域」「言語と社会」「言語と心理」「言語と情報」「言語」の 5 区分に分類される考えを示している。そしてその 5 区分の下位に、「世界と日本」「異文化接触」・・・「コミュニケーション能力」などの 16 の内容を挙げている。

大学の日本語教員養成課程では、この「教育内容」に則り、大幅小幅度なカリキュラム改訂がなされ、日本語教員の養成に供されている。

とはいえ、養成課程の修了生は、皆が日本語教員に就くわけではなく、国語教員や公務員、一般企業など、さまざまな職域へと就いていく。

では課程で学んだ学科目は、それぞれの職域でいかに活かされているのか。日本語教員養成課程は、どこまで社会に貢献しているのか。

本研究では、大学の日本語教員養成課程の修了生を対象に、課程で学修した学科目が現在の職業でいかに活かされているかを問い、課程の修了生が、日本語教育をいかに受容し、変容を遂げているか、またグローバル人材として活躍していく可能性はあるか、量的・質的調査により考えていく。

## 2. 研究の目的

(1) 現在の日本語教育を取り巻く状況は極めて多様化しており、日本語教育の対象者は、留学生、研修生、帰国子女、ビジネスマン、児童生徒など、多様な場面で日本語教育が求められる、日本語教員に必要とされる資質・能力も複雑化せざるをえない。また日本語教員

には、そうした学習者とのコミュニケーション能力が求められてくる。

平成 12 年 3 月の『日本語教育のための教員養成について』では、「日本語教員として望まれる資質・能力」として、「コミュニケーション」を最重要項目と位置付けた。

同報告書はさらに、

日本語教育とは、広い意味で、コミュニケーションそのものであり、教授者と学習者とが固定的な関係でなく、相互に学び、教え合う実際的なコミュニケーション活動と考えられる。また、このような包括的な概念としてのコミュニケーションは、今回新たに示す教育内容のすべてに共通しその根底をなすものであり、教育内容の基本となるものである。と、コミュニケーション教育の重要性を強調している。

大学の日本語教員養成課程では、「教育内容」で示された教育内容をもとに、大学それぞれの事情に合わせた日本語教員養成が実施されているが、課程の修了生が、課程で学んだ学科目をいかに受容し、課程修了後いかに変容し、現在の職業でどのように活かしているかを知ることが、課程のあり方や、今後ますます必要となるであろう日本語教員、そして課程修了生の社会貢献について考える上で、貴重な資料となるものと思われる。

(2) 大学の日本語教員養成課程の修了生は、日本語教員に就くばかりでなく、社会の様々な職域に就いていく。課程では、日本語学、日本語教育、日本文化関連の学科目を中心に一般教養をも含めた多様な学科目を学ぶが、課程で身に付けた資質や能力を現在の職業にいかに還元し、社会貢献を果たしているのか。課程のカリキュラムを策定したり、授業科目のシラバスを考えたりする上で、重要な課題となる。

平成 12 年 3 月に文化庁・日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議が報告した

『日本語教育のための教員養成について』では、「日本語教員養成において必要とされる教育内容」として、コミュニケーションを日本語教育の中核として位置づけられ、大学の日本語教員養成課程では、この「教育内容」に則り、大学独自のカリキュラムに基づく日本語教員の養成が実施されている。

すなわち課程の修了生には、コミュニケーション能力を獲得し、社会に還元していくことが期待されるが、コミュニケーションの中身までは、上記「教育内容」では明らかにされていない。

本研究では、課程の修了生へのインタビューを通じて、課程修了後に課程で身に付けた資質や能力をいかに職業に活かし社会貢献を果たしているか、殊にコミュニケーション能力をいかに活かしているか、分析していく。

### 3. 研究の方法

(1) 日本語教員養成課程修了生を対象としたアンケート調査。課程修了後に日本語教員に就いた者と就かなかった者のグループに分け、統計分析を施す。

(2) 日本語教員養成課程修了生を対象とするインタビュー調査。Modified-Grounded Theory Approach (M-GTA)による分析。

### 4 研究成果

日本語教員養成課程では、平成12年3月に文化庁・日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議が報告した『日本語教育のための教員養成について』の「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に示された、コミュニケーションを日本語教育の中核とする考えに則って学科目が配されたカリキュラムを偏している。

日本語教員養成課程の在學生・修了生は、こうした学科目を学修し、社会に出ていくことになるが、その就職先は、日本語教員に就くばかりでなく、社会の様々な職域へと就いていく。では課程で身に付けた資質や能力は、

それぞれの職域でいかに活かされているか。その回答を求めべく、本調査では、日本語教員養成課程修了生を対象とするアンケート調査（量的調査）及びインタビュー調査（質的調査）を通じて、修了生の課程での学びを探った。

アンケート調査では、上記学科目のうち、「異文化」「コミュニケーション」「日本語の構造」といった学科目が現在の職域で活かされていると感じる割合が高く現れた。これらは、課程の「売り」ともいえる学科目で、日本語教員・非日本語教員を問わず、ほぼ結果を同じくした。このことは、たとえ日本語教員に就かずとも、課程での学びが現在の職業に活かされていることを示すと同時に、グローバル化が進む昨今の日本の現況に鑑みて、課程の修了生を「在野」の日本語教員として活用していける可能性のあることを示している。また課程で身に付けた資質や能力を活かして、グローバル化時代に求められる社会貢献を果たしていくことの責務についても示唆している。

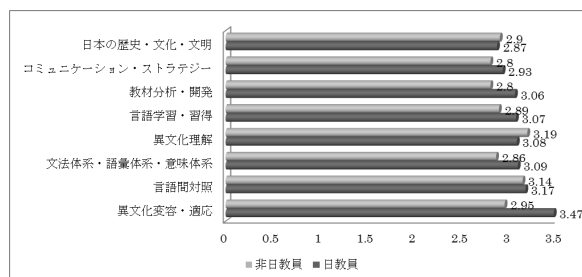


図1 日本語教員・非日本語教員で平均値の高い項目

また上記仮説を検証すべく、課程の修了生を対象にインタビュー調査を実施した。インタビュー内容を、M-GTAを用いて分析し、概念を抽出した。この概念こそが、本インタビュー調査の中心となった、「コミュニケーション」「社会貢献」「グローバル人材」の中身であると考えられる。

インタビューから抽出した概念を再度まとめてみる。

#### グローバル・コミュニケーション

##### A コミュニケーション能力

- 1 異文化コミュニケーション
- 2 対人コミュニケーション
- 3 外国人とのコミュニケーション
- 4 対人関係能力
- 5 コミュニケーション上手

##### B 言語能力

- 6 日本語を教える
- 7 外国語学習
- 8 留学
- 9 好きで選んだ
- 10 視野拡大

##### C 世界観の形成

- 11 親善大使となる
- 12 学習者の生活支援
- 13 日本人性

##### D 職業観の形成

- 14 会社の利益追求

日本語教員養成課程の修了生は、課程で身に付けたコミュニケーション能力を武器として社会貢献を果たし、異文化能力や外国語能力を活かして世界観(国際感覚)に磨きをかけていく。

そうした土壌の形成には、課程のカリキュラムはもちろんのこと、「好きで選んだ道」という向上心があり、課程は修了生(在學生)の期待に応えていると言える。

しかし修了生には、自身が課程でどんな資質や能力を身に付けたかについて実感がなく、修了生の能力は発掘されざる状況にある。修了生には、自身の資質や能力について、自信と誇りを持ち、グローバル人材として社会貢献を果たしていくことが期待される。

グローバル人材としての素養は、社会の様々な職域で発揮されるはずであり、多様な職域で修了生の活躍が期待されている。

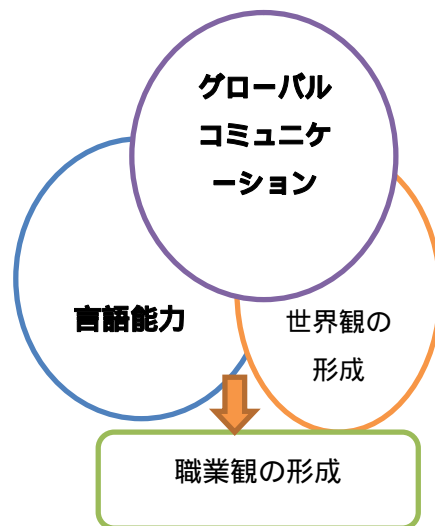


図2 日本語教員養成課程修了生の社会貢献とグローバル人材の育成

#### 引用文献

文化庁・日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議(2000)『日本語教育のための教員養成について』。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計11件)

中川 良雄、日本語教員養成課程修了生の学び—受容と変容(2)—、研究論叢、京都外国語大学、査読有、第88号、2017、pp.79-93.

中川 良雄、日本語教員養成課程修了生の学び—受容と変容(1)—、研究論叢、京都外国語大学、査読有、第87号、2016、pp.21-40.

中川 良雄、日本語教員養成課程修了生の社会貢献とグローバル人材育成に関する構造化研究 / 平成 25 年度～平成 27 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) (研究代表者: 中川良雄、課題番号: 25370607) 研究成果報告書、2016、pp.1-75.

高木 裕子・古内 綾子・片野 洋平、グローバル下の日本語教員養成課程における「分析概念」から「実体概念」への発想移行の必要性 - 「高木班」調査結果を踏まえて、 - 平成 25 年度～平成 27 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) (研究代表者: 中川良雄、課題番号: 25370607) 研究成果報告書、2016、pp.77-137.

中川 良雄、日本語教員養成課程修了生の社会貢献 M-GTA による分析、研究論叢、京都外国語大学、査読有、第 86 号、2016、pp.124-138.

中川 良雄、日本語教員養成課程修了生の学び: コミュニケーション-M-GTA による分析、研究論叢、京都外国語大学、査読有、第 85 号、2015、pp.191-203.

中川 良雄、日本語教員養成課程修了生は、グローバル人材になりうるか、中国日語教学研究会文集、大連理工大学出版社、査読有、第 11 号、2015、pp.219-224.

中川 良雄、日本語教員の養成は、グローバル人材の育成につながるか、日本語教育方法研究会誌、日本語教育方法研究会、査読有、Vol/21, No.2, 2014、pp.54-55.

中川 良雄、日本語教員の養成とグローバル人材の育成、研究論叢、京都外国語大学、査読有、第 83 号、2014、pp.207-217.

中川 良雄、日本語教員養成課程修了生の日本語教育の受容と変容 (3)、研究論叢、京都外国語大学、査読有、第 82 号、2014、pp.217-226.

中川 良雄、日本語教員養成課程修了生の日本語教育の受容と変容 (2)

研究論叢、京都外国語大学、査読有、第 80 号、2013、pp.193-297.

[学会発表] (計 8 件)

中川 良雄、(ポスター発表) グローバル時代に求められる日本語教員の資質・能力と日本語教員の養成、International Conference on Japanese Language Education, 2016 年 9 月 10 日、Bali Nusa Dua Convention Center (バリ、インドネシア)

中川 良雄、グローバル化時代に求められる日本語教員の養成、2016 年度暨南大学日本語教育・日本学研究国際シンポジウム、2015 年 12 月 26 日、暨南大学 (広州市・中国)

WALKER Izumi・高木 裕子、グローバル化に向けた人材育成のための二国間協働学習デザインとその実践、シンガポールビジネス日本語教育国際研究大会、2015 年 11 月 22 日、シンガポール日本人会 (シンガポール)

中川 良雄、(講演) 日本語教育の社会貢献とグローバル人材、草津市国際交流協会日本語教育支援者のレベルアップ研修会、2015 年 8 月 30 日、草津市まちづくりセンター (滋賀県草津市)

中川 良雄、(ポスター発表) 日本語教員の養成は、グローバル人材の育成につながるか、第 43 回日本語教育方法研究会、2014 年 9 月 6 日、藤女子大学 (北海道札幌市)

高木 裕子・WALKER Izumi、グローバル人材育成のための二国間協働学習 - シンガポールにおける企業訪問プロジェクト -、SYDNEY-ICJLE 2014 日本語教育国際研究大会、2014 年 7 月 11 日、シドニー工科大学 (シドニー・オーストラリア)

中川 良雄、日本語教員養成課程修了生は、グローバル人材になりうるか、2014

年中国日語教学研究会年会及び国際シン  
ポジウム、2014年6月21日、中国・東  
北師範大学（長春市・中国）

中川 良雄、日本語教員の養成とグロー  
バル人材育成に関する提議、2013年暨南  
大学“他者认识”与日语教育・日本学研  
究国際研讨会、2013年11月3日、暨南  
大学(広州市・中国)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中川 良雄 (NAKAGAWA Yoshio)  
京都外国語大学・外国語学部・教授  
研究者番号：30261043

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

才田 いずみ (SAITA izumi)  
東北大学大学院・文学研究科・教授  
研究者番号：20186919

高木 裕子 (TAKAGI Hiroko)  
実践女子大学・人間社会学部・教授  
研究者番号：80241165

馬場 良二 (BABA Ryoji)  
熊本県立大学・文学部・教授  
研究者番号：30218672

### (4) 研究協力者

上野山 愛弥 (UENOYAMA Aya)  
片野 洋平 (KATANO Yohei)  
天満 理恵 (TEMMA Rie)  
古内 綾子 (FURUUCHI Ayako)